



ハイライトよねやま 180

2015年3月12日発行
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

寄付金速報 ー下半期も引き続き好調を維持ー

2月までの寄付金累計は前年同期と比べ4.0%増、約4,300万円の増加です。普通寄付金が2.5%増、特別寄付金が4.9%増となりました。2月単月の寄付金は8,200万円と、直近6年間では2番目に高い金額となり、累計額も先月に引き続き6年間の中で最高額を維持しています。多くのロータリアン、また、学友からのご支援により好調に推移しています。今年度も残り3カ月半ほどとなりました。引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

ホームカミングの学友が各地区行事で活躍

「ホームカミング制度」は、活躍する米山学友を各地区が招き、その活躍ぶりをロータリアンに広く紹介していただく制度です。地区でお世話いただいた学友だけでなく、他地区出身の学友、日本国内在住の学友も対象になります。2月中旬から各地区で開催された地区大会などに、この制度を通じて続々と学友が招かれ、交流を広げて、ロータリーとの絆を深めました。

第2580地区（東京・沖縄）の招へいで来日したのは、タイ米山学友会初代幹事のブサコーン・ホンヨックさん。2月17日の地区大会、翌18日の奨学生期間終了式に出席したブサコーンさんは、多くのロータリアンや奨学生と笑顔で交流しました。自らが実践する「四つのテスト」の教えや職業奉仕など、ロータリーへの深い理解と感謝を述べたそのスピーチは、大きな感動を呼びました。



第2760地区（愛知）の地区大会には、同じくタイ米山学友会で活躍するアヌチャー・ボリブーンさんが出席。2月22日に登壇して活動報告を行いました。アヌチャーさんは同地区出身ということもあり、世話クラブの豊橋北RCの例会に参加し、カウンセラーをはじめ同クラブ会員との旧交を温めるなど、“里帰り”を満喫しました。

また、第2730地区（鹿児島・宮崎）で3月7～8日に開催された会長エレクト研修セミナーには、よねやま親善大使の楊小平さんが招かれ、スピーチを行いました。

3月・4月も、第2500地区（北海道東部）のIMにジャンチブ・ガルバドラッハさん（モンゴル）と崔一信さん（韓国）、第2700地区（福岡・佐賀・長崎）の地区大会に謝億榮さん（台湾）など、「ホームカミング」で来日する米山学友がスピーチを行います。参加される皆さまは、ぜひ彼らのスピーチに耳を傾け、温かい拍手をお願いします。

地区協議会用資料あります

地区協議会で参加者に配布いただく米山奨学会の資料を2月中旬から順次送付しています。

お送りする内容は、①豆辞典 ②クラブ米山奨学委員長の手引き ③米山学友の群像 vol.4 ④DVD「ひろがれ！人づくりの輪」です（①～③はクラブ数+20部、④は地区につき1枚）。ぜひご活用ください。

モンゴル米山学友会が設立 1 周年

3月1日、モンゴル米山学友会の創立1周年記念総会がウランバートル市で開催されました。

総会には学友26人のほか、第3450地区ガバナー補佐をはじめモンゴルのロータリークラブ会長、在モンゴル日本国大使館の菊池参事官、ローターアクトクラブ代表など、合わせて



36人が参加。活動・収支報告、新会員紹介、日本のロータリアンや奨学生から寄せられたメッセージが披露され、総会は大いに盛り上がりました。また、日本のオーガニック肥料生産工場を設立し、フレールC会員にもなったペレンレイ・ツェレンミンジンさん（2001-02/寝屋川RC）、新モンゴル工業高等専門学校への設立に尽力し、校長となったシルネン・ブヤンジャルガルさん（2010-11/成田RC）の2人が、「今年度最優秀会員」として表彰されました。



この1年間、学友3名が新しくモンゴルのRC・RACに入会したほか、RC・RACとの関係強化に務め、いくつかのプロジェクトにも協力しました。日本から多くのロータリアンがモンゴルへ来訪くださいましたが、私たちはその都度、恩返し的心を込めてお迎えしました。これからも、若く、そして元気あふれる会員が心をつにし、絆を大切に活動していきたいと思っております。最後に、モンゴル米山学友会の会員が現在50名を超えたことを、日本の皆さんへ喜びの気持ちとともにご報告いたします。

—— 会長 ジャンチブ・ガルバドラハ

初めて米山カウンセラーとなって

卒業シーズンの3月は、各地区で奨学生の終了式が開催されています。米山奨学生のカウンセラー、そして、世話クラブの皆さまにとってどのような1年だったのでしょうか。第2660地区大阪ネクストロータリークラブ会員で、初めてカウンセラーを引き受けたという西村恵一氏から寄せられた、今の気持ちと奨学生へのはなむけのメッセージを紹介します。



自分は時間的にも結構自由やし、やらせてもらいますって米山奨学生のカウンセラーになりました。なんにもしてあげられなかったけれど、一年間ありがとう。なんにもしてあげられなかったけれど、僕は、子どもを持った親の気持ちがわかったような気がしています。僕は20代の時、ロータリークラブのGSEというプログラムでアメリカに行かせてもらって、ほんとにかけがえのない経験をさせてもらって、このご恩をいつか返したいと思ってました。日ごろ親から、「ひとの役に立つことせえ」と、言われてんねんけど、ぼやぼやしとったら10年20年ぼろくそに過ぎよる……。今日は「感謝状もろたで」言うたら、母も喜んでくれるでしょう。

張雪晴さんへ。「これから進学も決まり、まだまだ大変やと思いますが、僕があなたに願うことは、からだに気をつけて過ごしてほしいということだけです。僕も少しでも成長していきたいと思っています。これから一緒に成長していきましょう。これからは、少しはあなたの力になれるようにがんばりますので、困ったときはいつでも相談してください。あなたに出会えて、ほんまのほんまに幸せです」。